

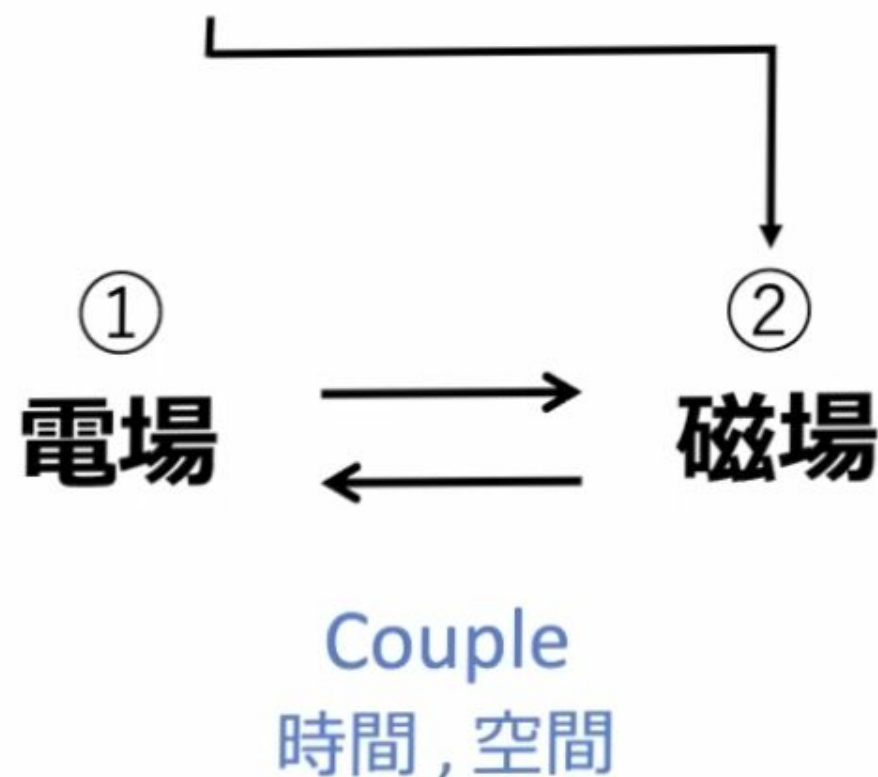
材料の物理2 (電磁気学)

第一回：Maxwell方程式への導入

材料の物理2 きまりごと

- ・ 手書きでノートをとってください（学習効果を上げるため）
- ・ 毎回簡単な演習をします。（演習式 / 探索式）
- ・ 課題はLETUS提出（ \times 切は火曜10:30）
- ・ 提出内容に応じて加点することがあります。
- ・ 節目に小テストをします。
- ・ 期末試験は小テストから＋独自問題
- ・ 期末試験ではバツサリ切ります。

材料の物理② (電磁気学：変動する電磁場)



ex)
・ モーター, 回路

応用例を
挙げてみよう

Goal

Maxwell 方程式

||

この世界の電磁現象を記述する式・・・相対性理論の土台

電場

$$\nabla \cdot \mathbf{E} = \frac{\rho}{\varepsilon_0}$$

磁場

$$\nabla \cdot \mathbf{B} = 0$$

$$\nabla \times \mathbf{E} + \frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} = 0$$

時間

$$\nabla \times \mathbf{B} - \varepsilon_0 \mu_0 \frac{\partial \mathbf{E}}{\partial t} = \mu_0 \mathbf{i}$$

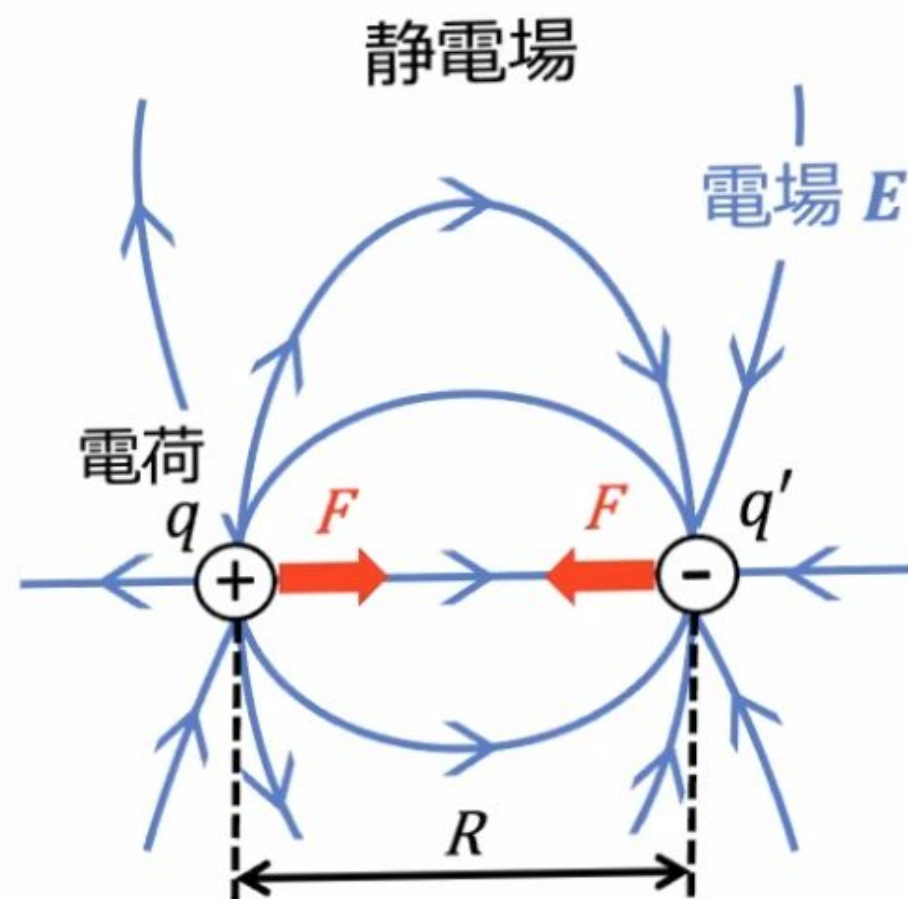
時間

たった4つの式
美しい！

Final goal

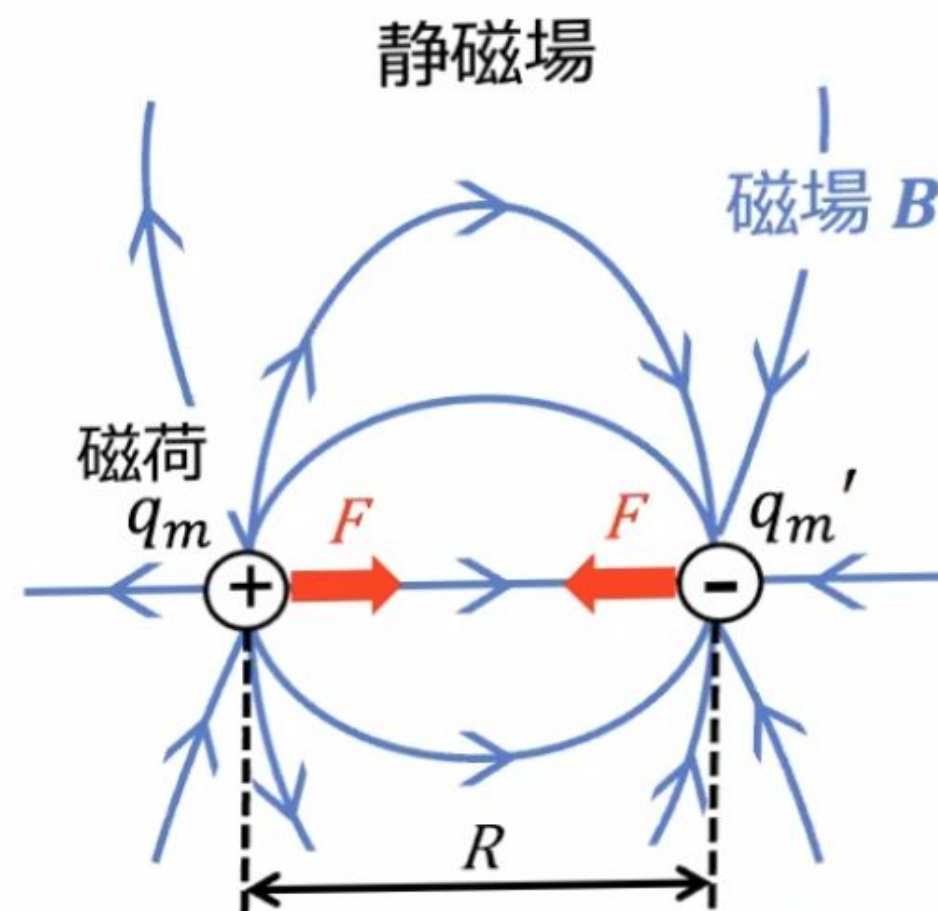
※ $\mathbf{B}, \mathbf{E}, \mathbf{i}$ はベクトル

7.1 電場と磁場



$$F \propto \frac{q \cdot q'}{R^2}$$

クーロン力

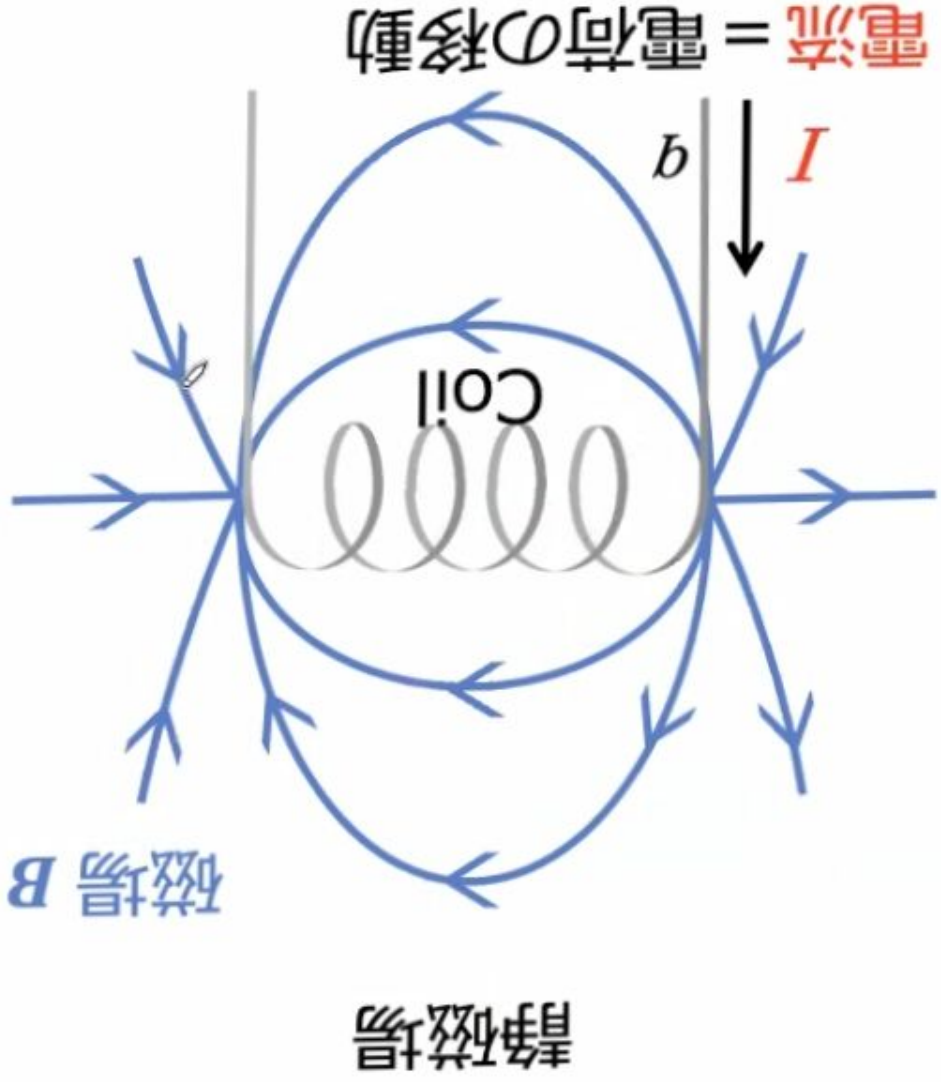
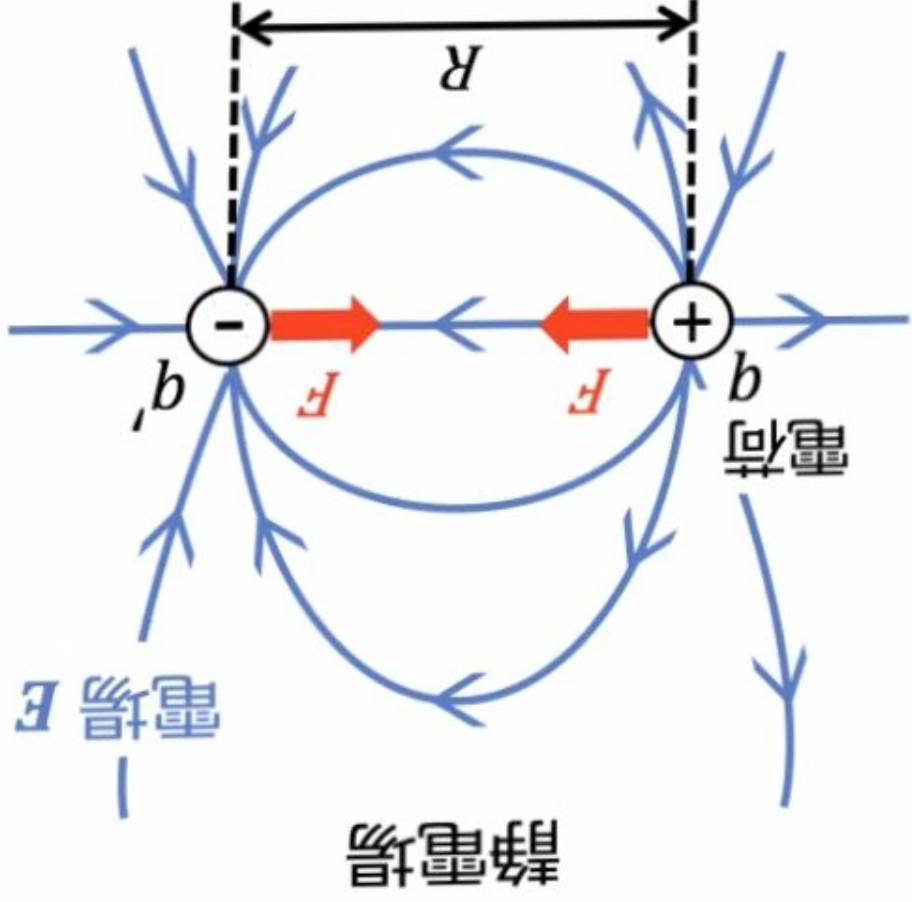


類似
 \equiv

$$F \propto \frac{q_m \cdot q_m'}{R^2}$$

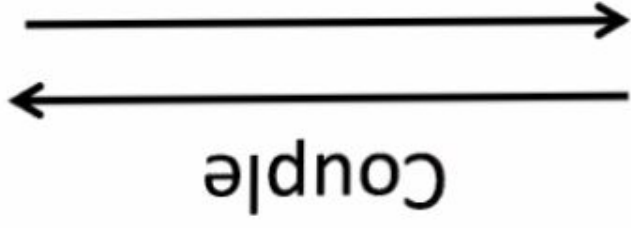
$\frac{1}{R^2}$... 場(Field)で考える

実際は磁荷はペアで存在



磁場

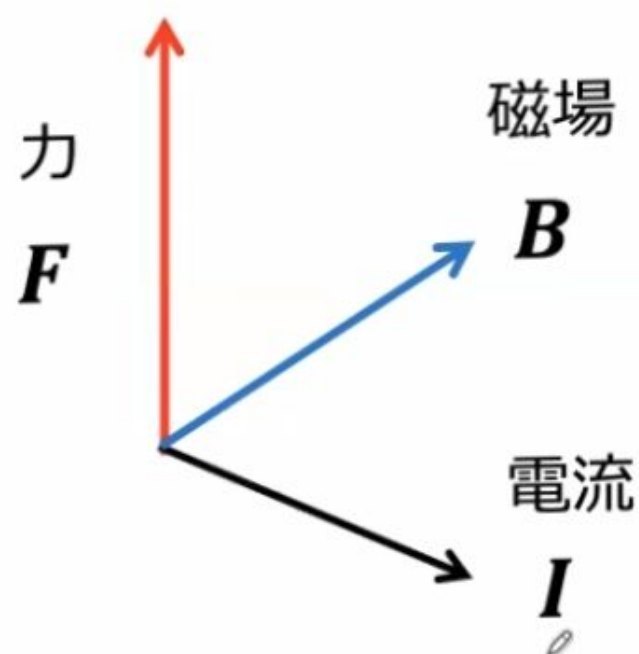
電流 (電子の運動)



電場

7.2 アンペールの力

磁場中の電流に働く力

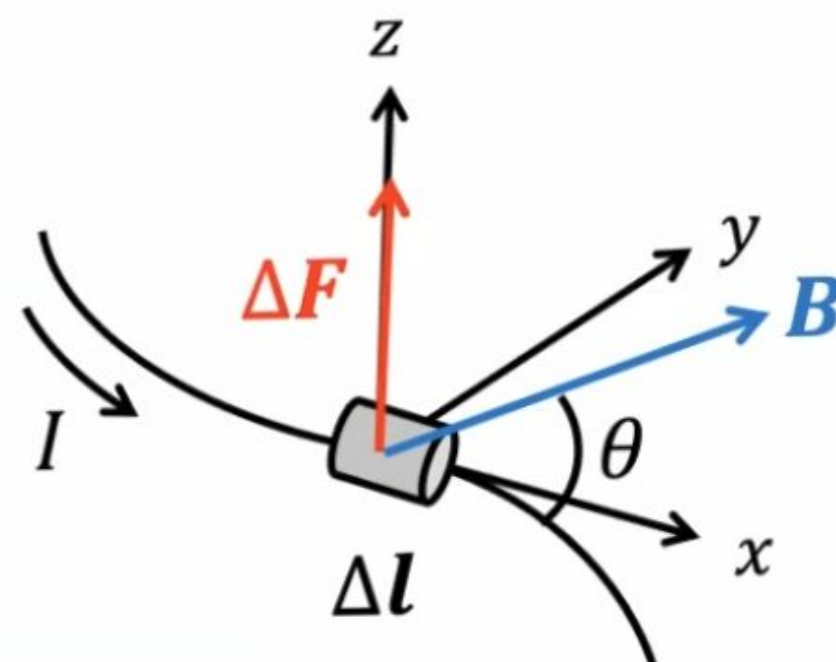


$$\begin{aligned} \mathbf{F} &= q\mathbf{v} \times \mathbf{B} \\ &\quad \underline{\quad} \\ &= I \end{aligned}$$

ローレンツ力

拡張

任意の形式

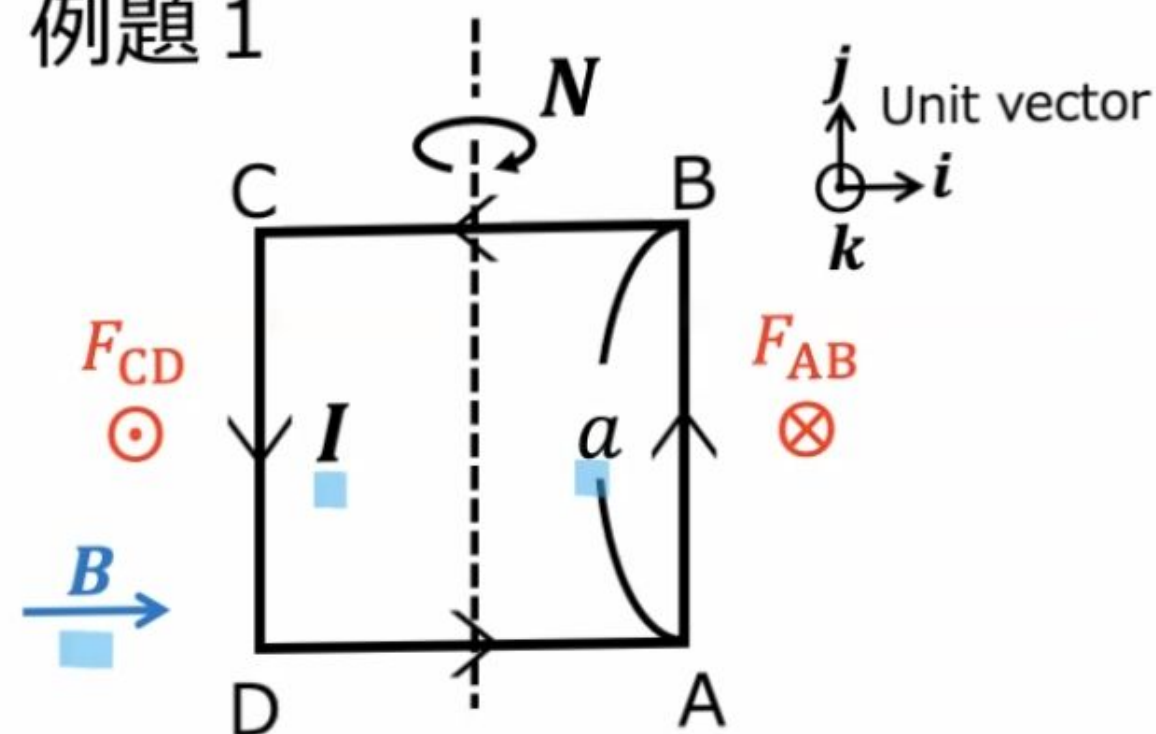


微小導線 Δl に働く力 ΔF
任意方向の磁場 B

$$\Delta \mathbf{F} = I \cdot \Delta \mathbf{l} \times \mathbf{B}$$

$$|\Delta \mathbf{F}| = I \cdot |\Delta \mathbf{l}| |\mathbf{B}| \sin \theta$$

例題 1



$$\mathbf{F}_{AB} = a\mathbf{I}_{AB} \times \mathbf{B} = -a \cdot I \cdot B \cdot \mathbf{k}$$

$$\mathbf{F}_{BC} = 0$$

$$\mathbf{F}_{CD} = a\mathbf{I}_{CD} \times \mathbf{B} = +a \cdot I \cdot B \cdot \mathbf{k}$$

$$\mathbf{F}_{DA} = 0$$

回路に働く力は?

$$\mathbf{I}_{AB} = (0, I, 0)$$

$$\mathbf{I}_{BC} = (-I, 0, 0)$$

$$\mathbf{I}_{CD} = (0, -I, 0)$$

$$\mathbf{I}_{DA} = (I, 0, 0)$$

$$\mathbf{B} = (B, 0, 0)$$

回路全体にかかる合力は

$$\mathbf{F}_{AB} + \mathbf{F}_{CD} = 0$$

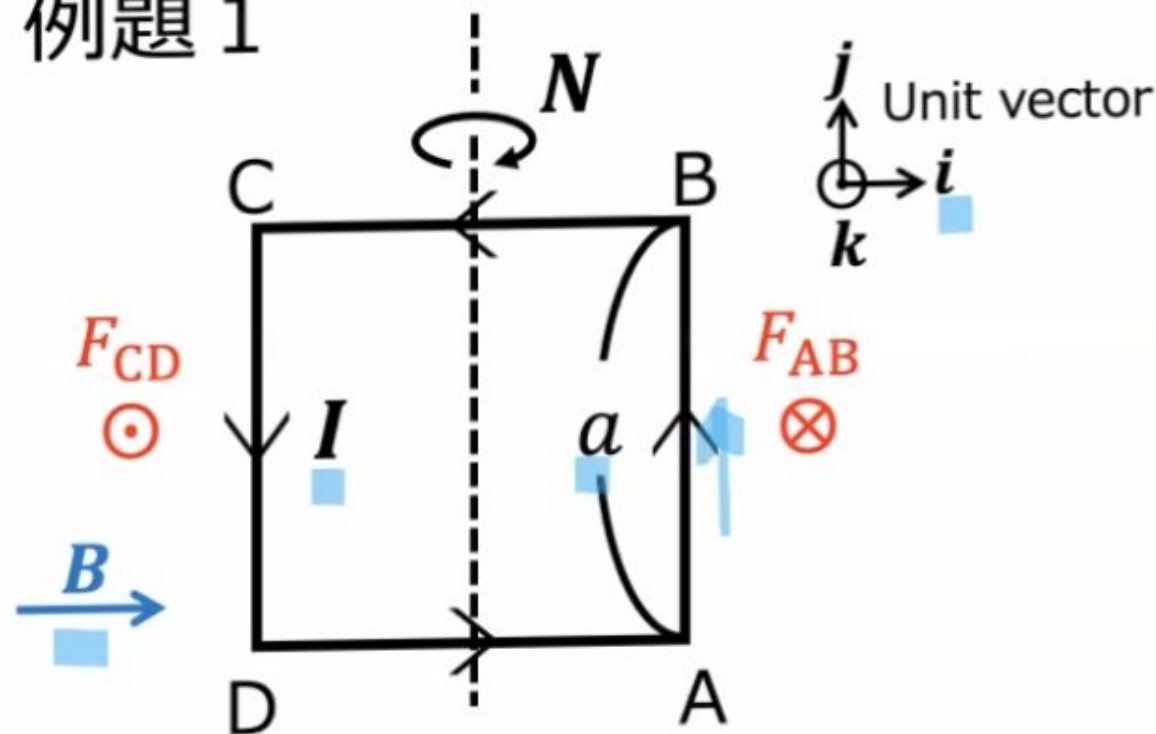
回路全体にかかるトルク N は

$$\mathbf{N} = \frac{a}{2} \mathbf{i} \times \mathbf{F}_{AB} + \left(-\frac{a}{2}\right) \mathbf{i} \times \mathbf{F}_{CD}$$

$$= \boxed{?}$$

足し合わせればOK

例題 1



$$F_{AB} = a I_{AB} \times B = -a \cdot I \cdot B \cdot k \quad \checkmark$$

$$F_{BC} = 0$$

$$F_{CD} = a I_{CD} \times B = +a \cdot I \cdot B \cdot k \quad \checkmark$$

$$F_{DA} = 0$$

回路に働く力は？

$$I_{AB} = (0, I, 0) \quad \checkmark$$

$$I_{BC} = (-I, 0, 0) \quad \checkmark$$

$$I_{CD} = (0, -I, 0)$$

$$I_{DA} = (I, 0, 0)$$

$$B = (B, 0, 0) \quad \checkmark$$

回路全体にかかる合力は

足し合わせればOK

$$F_{AB} + F_{CD} = 0$$

回路全体にかかるトルク N は

$$\begin{aligned} N &= \frac{a}{2} i \times F_{AB} + \left(-\frac{a}{2}\right) i \times F_{CD} \\ &= a^2 \cdot I \cdot B \cdot j \end{aligned}$$

7.3 電磁場中の電子に働く力

電場

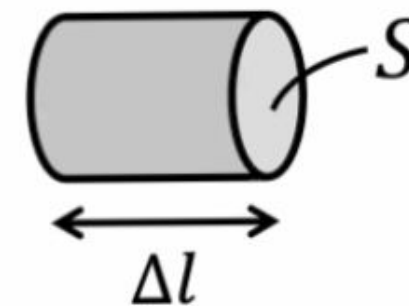
$$\mathbf{F}_E = q\mathbf{E}$$

クーロン力

磁場 (アンペールの法則より)

$$\Delta \mathbf{F}_B = I \cdot \Delta \mathbf{l} \times \mathbf{B}$$

電流密度 $i = \frac{I}{S}$ → 断面積



$$\begin{aligned}\Delta \mathbf{F} &= S i \cdot \Delta \mathbf{l} \times \mathbf{B} \\ &= \Delta V \cdot \mathbf{i} \times \mathbf{B}\end{aligned}$$

微小切片に
かかる力を考えよう

ここで $\mathbf{i} = n q \mathbf{v}$
電荷密度

$$= \frac{\Delta V \cdot n}{\rho} \cdot q \mathbf{v} \times \mathbf{B}$$

電荷の総数 N

$$\Delta \mathbf{F} = N q \mathbf{v} \times \mathbf{B}$$

これより 1 個の電荷が受けるのは

$$\mathbf{F}_B = q \mathbf{v} \times \mathbf{B}$$

ローレンツ力

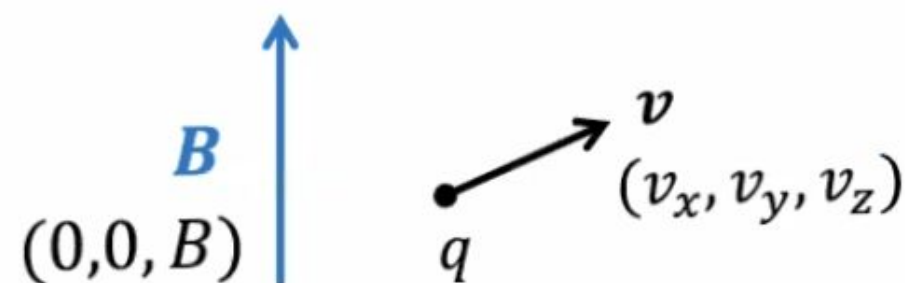
速度 \mathbf{v} と直交

電磁場中の電子 電場と磁場から受ける力を足す

$$\mathbf{F} = \mathbf{F}_E + \mathbf{F}_B = q \mathbf{E} + q \mathbf{v} \times \mathbf{B}$$

$$= \underline{q(\mathbf{E} + \mathbf{v} \times \mathbf{B})}$$

例題3 磁場中の電子



運動方程式

$$\mathbf{F} = m \frac{d\mathbf{v}}{dt} = q\mathbf{v} \times \mathbf{B}$$

x, y, z 成分に分ける

$$\left\{ \begin{array}{l} \frac{dv_x}{dt} = \frac{q}{m} v_y B \\ \frac{dv_y}{dt} = -\frac{q}{m} v_x B \\ \frac{dv_z}{dt} = 0 \end{array} \right. \quad \text{まとめる}$$

$$\frac{d^2 v_x}{dt^2} = \frac{q}{m} B \frac{dv_y}{dt} = -\left(\frac{q}{m} B\right)^2 v_x \quad \left. \vphantom{\frac{d^2 v_x}{dt^2}} \right\} \text{微分方程式をとく}$$

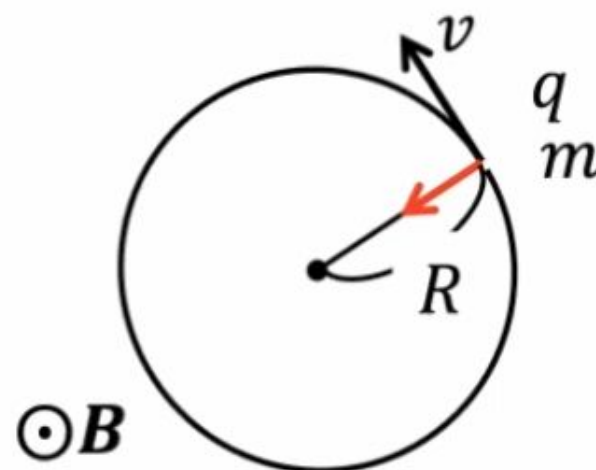
$$v_x = v_{\perp} \cos(\omega t + \beta)$$

単振動の式

$$\text{ただし } \omega = \frac{qB}{m}$$

v_{\perp}, β は定数

例題 4 上記円運動の半径と周期は？（質量 m ）



向心力 = ローレンツ力 より

$$m \frac{v^2}{R} = qvB$$

$$R = \frac{mv}{qB}$$

円運動の周期は

$$T = \frac{2\pi R}{v} = \frac{2\pi m}{qB}$$

代入

これより振動数 f は

$$f = \frac{1}{T} = \frac{qB}{2\pi m}$$

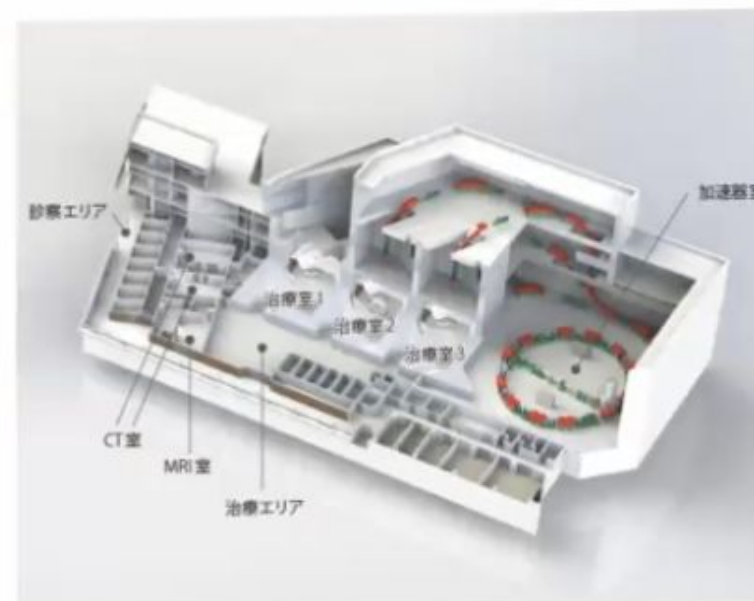
“サイクロトロン運動”



Spring-8



科捜研の女 劇場版



ガン治療

巨大加速器

物理

物質科学

ナノテク

医療

全画面表示を終了するには、上からドラッグして、
戻るボタンをタップします。

第一回課題：×切 来週火曜10:30

電磁気現象（電場と磁場、電流と磁化の相互作用）を利用しているデバイスを一つ挙げてください。

（コイル、アンテナ、加速器、雷等々、を利用したデバイス）

- ・そのデバイスが利用している電磁気現象を説明してください。
- ・そのデバイスによって社会や産業がどのように変わったか(変わるか)を説明してください。
- ・そのデバイスの発明におけるキーポイントを自分なりに調べて、論じてください。
- ・A4 1ページ、テキスト検索可能なPDF形式でLETUSにアップロードしてください。

小さな着眼点が社会に大きな変革をもたらすことは歴史上枚挙に暇がありません。
自分なりの着眼点で、この課題に取り組んでみて下さい。
面白い（interestingな）回答を期待しています！